

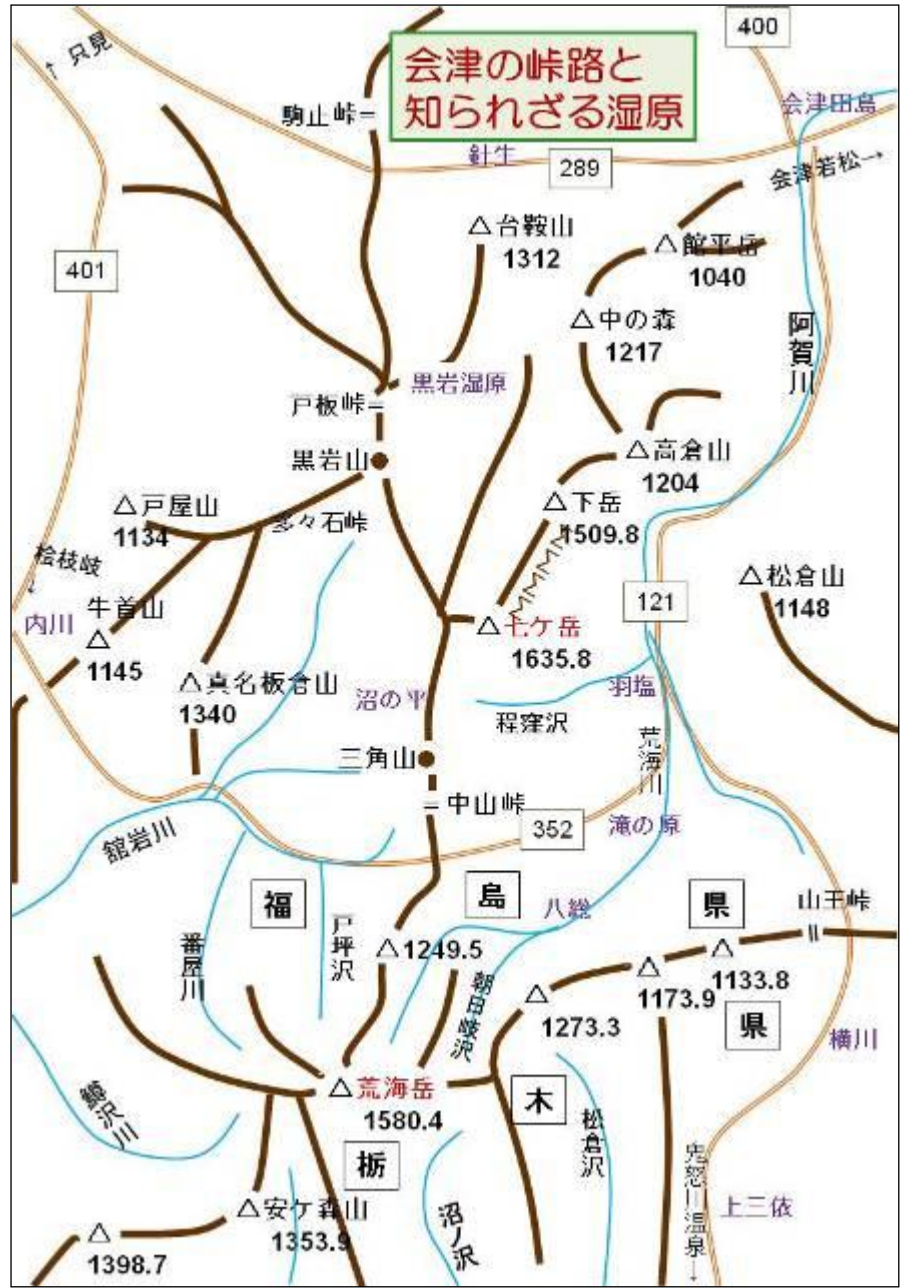
踏み跡 <My Mountains>

南アルプスの早川尾根縦走を考えていたが、いざ直前になってわかったことが.....

「広河原線のバスは11月5日をもって冬期運休に入る」ということで急遽計画変更。このところ会津の山にはまりきっているのも、代案はすぐに出てくる。

そんな訳で、荒海山(あらかいざん)と七ヶ岳(ななつがたけ)を梯子しようというプランが浮上。

荒海山は栃木県と福島県の県境にある関東山脈の一隅を担う所であり、海拔1580.4m 日光・那須・会津の色々な山から見える形の良い山である。特に雪を付けた姿はコーカサスの山を思わせる迫力がある。七ヶ岳は会津西街道を北上する時、山王峠を抜けてから会津田島へ向かう間進行方向左側にそびえ立つ山で、海拔1635.8m、これまた特徴的な形をした山である。いずれも、会津の山を調べ始めた頃から気になる山としてリストアップしていた。これらの山を知った頃には東京から会津の山へは交通不便で行きにくかったが、今では野岩鉄道が開通し、道路も色々整備されてきたのでかなり不便さは解消されてきた。今回は車を使って、両山のほかに湿原探しもして来ようという欲張りな計画になった。



平成3年11月10日

天気は上々、6時半に家を出発。いつものルートで山王峠を越えて会津に入る。ちょっと足を伸ばして寄り道をして、会津通いが続くうちに顔なじみになった中荒井の赤井りんご園に立ち寄った。

「明日帰り道で買い物したいのでよろしく」と伝えたら、リンゴを一個ごちそうしてくれた。

羽塩に戻り 352号線に入り会津滝の原へ、そして国道から離れて荒海川に沿ってしばらくで八総銅山跡。

天気は快晴、時計を見ると11時。路傍に駐車し、昼食をとりながら身支度を整えて11時39分出発。

朝日岐沢の出合いに「登山口」の標識があった、12時05分。下山者一人とすれ違った。

荒海川に沿ってさらに進むと10分ほどで稜線への取り付け点に到着、12時15分。ここまでの時間経過としては順調。標高差200mほどの一直線の急な登り、しかも風がなく11月なのに暑い。

中山峠への稜線の鞍部(1180mぐらいか)12時30分。谷間とは打って変わって寒い北風の洗礼。下ってくる四人連れのパーティとすれ違った。予想に反して人間の匂いがする。

鞍部からは南に向かって暫くの間はプロムナードだったが、二つ目のこぶを越えたところから急な登りが始まった。時々振り返ると七ヶ岳が鮮やかに見える。

踏み跡 <My Mountains>



荒海山山頂 13時 55分。
まずは 1580.4mの二等三角点にタッチして景色の確認。
とにかく「凄い眺め!!」。
福島県側の斜面は比較的穏やかな曲線の尾根となっているが、栃木県側はストーンと切れ落ちるような状態になっており、そのせいか景観にも迫力がある。
南に高原山周辺、右に首を回していくと奥鬼怒の山・燧ヶ岳・平ヶ岳・会津駒・奥只見方面と続く。北に七ヶ岳、東に男鹿山塊、それらを繋ぐ関東山脈の県境稜線。
風が冷たいので、風が来ない

笹の中に腰をおろして景色を楽しみながら遅めの昼食。

15時に頂上を出発して八総に16時30分に到着。次のターゲット七ヶ岳へ移動。

程窪沢出合いまで進み、七ヶ岳登山口へ。日没と競争でテントを張り、辛うじて闇になる前に落ち着き場所ができた。夕食は餅入りの雑炊、おかずはチョウシタの鰯蒲焼缶詰、デザートはみかん。

19時、満天の星を確認してシュラフイン。

22時30分、深夜のトイレタイムは星空見物も兼ねてゆっくりと。

平成3年11月11日

1時、やや寒さを感じて目が覚めたら小雨の音。寒さを凌ぐために雑炊の残りを食べて、再び眠りに。

5時40分起床。晴れてはいるが雲がある。風で舞ってくる水滴は風花だったのだろうか。朝食は餅入りサッポロラーメン。

7時20分出発。林道歩きはすぐに終わり、小さな滑滝が連続する平滑沢の一直線の登り。紅葉末期の、この季節ならではの沢歩きに心が弾んでくるのがわかる。空はすっきりと晴れているが空気は冷たく、時々風花が舞ってくる。

平滑沢の源頭 8時50分。いよいよ七ヶ岳は頭上に迫ってきた。七ヶ岳右回りで大きく巻きながら肩に上がるともう頂上は目の前。

七ヶ岳 1635.8m一等三角点、9時40分に到着。この山に登りたいと思ってから何年になるだろうか、初めてアタックしたのが昭和48年だから……。思い続けた価値がある素晴らしい眺めが待っていた。

正面に昨日登った荒海山、そして高原山・釈迦ヶ岳・日光連山・尾瀬の山々……。ミカンとチョコレートで小休止としたが、飽きない眺めに休憩時間が長くなってしまった。

そこかしこを眺めまわしているうちに、眼下の丸山の左の樹林の中に枯れ草色の平地が広がっているのを発見。沼の平湿原だ。地図上で見ると、丸山を越えて行く下山路が沼の平に繋がっている。意を決して沼の平湿原探訪に突入。10時08分頂上を出発。

高杖への分岐点 10時48分、ここで道は消失。「やはりそうだったのか」と納得しつつ地図と磁石を頼りに南南東へ一直線に藪こぎしたら草地の平原に飛び出した。

沼の平 12時10分。遂に「沼の平湿原探し」のゴールに到達した。爽快な気分と爽快な空の色の下で、昼食を兼ねて一時間半の大休止と湿原見物。木道がありはするが、泥田に埋もれかかっているところが多い。

湿原としては乾燥して、駒止湿原よりさらに年を重ねた感じの老齢のものと思われるが、足元の植物は豊富で十分に楽しむことができる。湿原のはずれに「沼の平湿原入口」の標識も立っていた。

13時40分湿原を後にして下山開始。門倉山と三角山の間の谷を下って行くと中山峠の旧道に出た。林道は燃え上がるような紅葉で鼻歌が出るような気持ちの良い眺め。

踏み跡 <My Mountains>

すぐに左に入り門倉山を巻いて行く林道を一時間弱歩いて、14時40分に程窪沢の七ヶ岳登山口に帰着。

着替えて15時02分出発。

積年の懸案事項がいくつもクリアできたし、天候に恵まれて素晴らしい紅葉も満喫できた。

しかも、入る人が少ないせいかゴミが少ない気持ちのいい山だった。

中荒井の赤井リンゴ園に立ち寄り、リンゴを買ってひと休みの後山王峠へ。復路は比較的スムーズで、19時30分に自宅に着いた。

以上

